



特集 「阪神大水害」を振り返る

今回は、阪神大水害に関する資料提供とあわせて特集を組みました。

7月21日、資料室では、阪神大水害の被災者の方8名(被災時、神戸市灘区にあった六甲尋常小学校3年生)にお集まりいただき、貴重な体験談を聞くことができました。この座談会は、神戸市灘区の浅田浩さんから、阪神大水害を記録した、大変貴重な映像をご寄贈いただいたことが契機となり、浅田さんから、小学校時代の同級生に声をかけていただき、実現したものです。(詳細は2頁。)

メモ 阪神大水害とは…

1938(昭和13)年7月3～5日の阪神大水害は、神戸市東部を流れる川の大半が氾濫を起こすという大災害で、616名の死者のほか、家屋流出3,623戸、埋没854戸、半壊6,440戸のほか床下・床上浸水は80,000戸弱に及ぶ大災害でした。



▲座談会の様子

阪神大水害の悲惨な被害

三宮の被害 神戸一の歓楽街も水に浸かり、見るもむざんな姿に…。

▼省線(現JR)三ノ宮駅前



▼三宮警察署前



▼三宮商店街(入り口)



氾濫した水の通り過ぎたあと。家屋は破壊され、流出した岩や木が残されている。



▲宇治川の氾濫によって街中に滞積した流出物



▲宇治川下流域の家屋。水が中を通り、壁を押し流している。



▲高羽の惨状(『神戸市水害誌』神戸市、1939)。正面に見える家屋は、左半分が完全に押し流されている。

6 月中から降り続く雨

1938年の梅雨は、毎日のように雨が降ったことが、特に印象深かったようです。特に7月3日の雨はすさまじく、電車が不通になるようなこともあったようです。しかし、先生から外で遊ばないように注意をされたとか、学校が休校になるかもしれないといったような予告も無く、翌4日も普段どおり登校しました。

登校後、山から「ゴロゴロ」という異様な音が聞こえてきました。急激に増した水が、上流から巨大な岩をも押し流す勢いをもって市街地に押し寄せてきたのです。「ゴロゴロ」という音は、巨大な岩の転がる音でした。このように流されてきた岩は、水が引いた後も被災地に残されることになりました。玄関から岩が飛び込み、帰宅してみると部屋の中に大岩が居座っていたようなこともあったといえます。

被害を拡大させた要因

出席者の皆さんによると、被害を拡大させたのは、暗渠であったと言われています。

暗渠は、川の上に蓋をするような形で道路などにして有効利用しようとするものでした。ところが、暗渠の入口が流されてきた岩や木々、砂などでふさがってしまうと、水は行き場を失って溢れるしかありません。特にひどい地域では、川の暗渠の入口で、水が噴水のように噴き出していたといえます。

そのため、水害後には、陸軍工兵隊を使って暗渠を爆破するよう求める声が高まり、同11日には新生田川暗渠が爆破されるなどしました。

今回お集まり頂いた方々が通っていた六甲尋常小学校は、都賀川の近くにあったこともあり、家屋が浸水したり倒壊したりした方はもちろん多く、中には級友やそのご家族で犠牲になった方もいらっしゃったそうです。



▲暗渠がもたらした被害拡大と、水害後の暗渠爆破を報じる新聞（資料室蔵）

まとめ ～水害の教訓～

近年、日本において、水害が多発しています。今年も中国・九州北部豪雨で山口県内や、兵庫県佐用町を中心として多数の死者が出る、凄惨な被害をもたらしました。沖縄県内においても那覇市内の川が急に増水し、作業員の方が亡くなる事故がおきています。

また、2004年の台風23号や、2008年の都賀川の水難事故などは記憶に新しいところでしょう。水害は決して余所事ではなく、身近なところで起こりえます。今回の座談会で、普段暮らしている街にも、水害が起こりうることを、いざ水害が起こってしまったときのすさまじい破壊力と悲惨な被害を臨場感を持って教えていただきました。

今回ご提供いただいた資料 （資料室で収蔵）

- ①『阪神大風水害被害状況』（1938年の水害を、8mmビデオカメラで撮ったもの。今回は、映像のデータをDVDでいただきました。）
- ②水害写真16枚

引用・参考文献

- ・田中眞吾『兵庫の地理 地形でよむ大地の歴史』神戸新聞総合出版センター、2007年
- ・兵庫県神戸測候所『昭和13年7月3日夕～5日午過 神戸市及び其の近傍に於ける希有の豪雨の概報』1938年

資料展

「描かれた1.17 震災絵画展」のご案内

場所：防災未来館2F 防災未来ギャラリー 期間：平成21年9月1日～11月1日まで、開催中

防災未来館2階で開催中の「描かれた1.17 震災絵画展2009」では、個人の被災者が描いた作品と共に、神戸市立明親小学校と神戸市立御影小学校の児童たちが震災当時に描いた絵(デジタルプリント版)を展示しています。

当時の担任の先生に、小学生が絵に込めた思いについてお聞きしました。

9月9日、同展示をご覧になられた橘俊一郎氏(神戸市教育委員会主任指導員)が資料室へ来られました。橘氏は震災当時、明親小学校5年生の担任で、震災1ヶ月後に児童たちに震災の絵を書くよう指導された先生です。橘氏から当時のお話をお聞きしました。

橘氏は震災後、友人のつながりで山口県下松市の医師会の方から、「神戸の惨状を知らせるために子どもたちに絵を描いてもらえないか」と話を持ちかけられました。震災からわずか1ヶ月のことで、児童たちもまだ不安で複雑な毎日でした。

橘氏がクラスの児童たちに「絵を描かないか」と話を切り出したところ、児童たちは口々に「書こう書こう」と絵筆をとってくれたそうです。橘氏は、一番印象に残ったことをメッセージ文にし、それから絵を入れることを提案しました。児童たちの絵には、「神戸がもえた」「くすれさった台所」などのメッセージ文が大きく書かれています。

これらの絵はその後、下松市をはじめ各地で紹介されました。現在、絵の現物は、神戸市立湊小学校内にある震災資料室に保管されています。この震災資料室は、1996年1月に神戸市教育委員会が湊小学校と合同で設けたものです。今では訪れる人も少なくなっているそうです。

子供たちが震災1ヶ月で描いた貴重な絵。それは子供たちの目に映った震災とその時の想いを、いま、そして将来に伝える貴重な資料です。現在、教育委員会におられる橘氏は、これらの絵の保存や活用について考えていきたいと話されました。



▲センターでの展示風景

▼湊小学校にある震災資料室の展示



NHK神戸放送局 「震災の絵」募集のお知らせ



阪神・淡路大震災を体験された方による、当時を表した「絵」を募集しています。映像や写真の記録だけでは伝えきれない体験者それぞれの記憶に残る風景、

人、出来事、思いを「絵」に託していただき、NHKの番組・URLや展覧会で多くの人に紹介していきます。

一人ひとりの記憶を風化させず、震災を知らない世代にも伝えていくために。あなたの目でみた「震災」を絵にしてお寄せください。

| | |
|-------------------|---|
| 主 催 | NHK神戸放送局 神戸新聞社 兵庫県人と防災未来センター 兵庫県立美術館 |
| 募 集 締 切 日 | 平成21年10月30日(必着) |
| 応 募 先 | 〒650-8515 神戸市中央区中山手通2-4-7 NHK神戸放送局「震災の絵」係 |
| 問い合わせ先 | NHK神戸放送局 (078) 252-5000 |
| 現在の展覧会 開 催 予 定 | 平成22年1月17日(日)～1月30日(土) 兵庫県立美術館ギャラリー |

新着資料紹介

～ビール瓶に入れられた飲料水～

神戸市灘区在住の70代の女性(Aさん)より、避難所で配られた水詰めのビール瓶が寄贈されました。Aさんは西灘駅前都通で被災され、住んでいたマンションは半壊になりました。17日は住民と一緒に近くの電気店に避難して、一晚を過ごしました。翌日、西灘小学校の避難所に行き、そこに2月か3月頃までいました。

今回で寄贈いただいた資料は、その西灘小学校の避難所で配られたものです。震災時、ビール会社は飲料水を瓶に詰めて被災地へ届けました。アルコールと区別するように王冠栓は無印にしています。

Aさんは、この水を「貴重な命の水」と思って飲まずに大切に保管していました。この水を今後どうするか長いあいだ悩んでいましたが、このままでは捨てるだけになってしまう、今後に活かして欲しいと思い、当センターへ寄贈されました。なによりも震災時の思いが詰まった貴重な水です。

その時の女性の校長先生がとても親切な方だったこと、ほかにも多くの方にお世話になったことが忘れられません。Aさんは、この震災がきっかけで、6年ほど前からボランティア活動をしています。



レポート

トルコ大地震10周年「トルコの子ども絵画展」に、トルコの被災児童4名が来訪

メモ 「トルコの子ども絵画展」の経緯

トルコ北西部地震の際に、兵庫県から仮設住宅を送り、現地に日本仮設村と呼ばれる仮設住宅の村ができました。仮設住宅内の、初等学校に、2002年8月イスタンブールの日本総領事館が画材を寄贈したところ、その画材で描いた絵が、それまでの日本の支援に対するお礼として贈られ、センターに収蔵されています。今回の資料展は、そのときに贈られた絵画を展示したものです。

8月27日、駐日トルコ共和国大使館、神戸・トルコ友好協会の協力により、資料室で開催していた「トルコの子ども絵画展」(開催期間:平成21年8月4日～8月30日)に、(財)兵庫県国際交流協会の招聘事業で来日していた、トルコの被災児童達が来室しました。

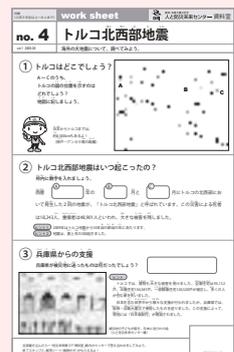
今回、来館した児童は、トルコ北西部地震(コジャエリ地震)の発生当時は3歳前後で、地震によって被災されただけでなく、ごく近い親族の方を亡くされるという経験をされています。全員現在、トルコの学制(8年制小学校)で小学校7年生で、今回、8日間の日程で兵庫・大阪・京都を訪れ、各地で交流を行いました。

その一環で訪れた資料室でも、展示された絵を大変熱心に鑑賞され、資料専門員の説明にも耳を傾けてくださいました。

今回の訪問は、被災直後の助け合いに止まらず、復興の過程における継続的な交流の実現という意味で、非常に有意義な時間となりました。



▲絵を見る子どもたち



▲来室にあわせ、トルコ北西部版のワークシートを新たに作成しました。

今後の企画予定

- 神戸大学附属図書館震災文庫との合同資料展:「資料が語る阪神・淡路大震災の記憶と現在」
10月9日(金)～1月22日(金)

☆11月28日(土)13:30～人と防災未来センターで、岩崎信彦氏(神戸大学名誉教授)、佐々木和子氏(神戸大学地域連携研究員)をお迎えして、講演会を開催します。

- DRIセミナー「災害の経験を伝える」～震災資料が語る関東大震災と阪神・淡路大震災～
12月19日(土) 12:30～16:30

(財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
阪神・淡路大震災記念

人と防災未来センター 資料室 (防災未来館5階)

〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2
TEL.078-262-5058 FAX.078-262-5062

HPアドレス <http://www.dri.ne.jp>

開室時間 9:30～17:30

閉室日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日) 12月29日から1月3日

資料室は無料でご利用いただけます